レンズ・コミュニケーション

美野里町企画課
桜井　浩

朝陽が稜線を染めて，高原の草紅葉を鮮やかに彩る。逆光に黄金色の葉を透かすカラマツ林。朝霧が低く，水平に平原を被う。青い空気が漂う……。

心を打つ１枚の写真をめざす人達にとって，心踊る自然との出合いの一瞬である。このシーンを刻むためだけに，夜半に起き，何度も何度も遠い道のりを通い続けてきた。寒気に耐えて，立ち尽くし，チャンスを待った。思わずシャッターを切る手に力がこもる。

一般の方々には到底理解できない，写真を趣味とする者だけが味わえる醍醐味とでも言うものであろうか。

私が，この趣味をもつようになったのは随分と前のことになる。子供の頃からカメラを持っていたし，兄は写真好きであった。道具いじりも好きだった。しかし，決定的となったのは，昭和48年，広報係を拝命して以来で，この時から，カメラはひとつの商売道具と化した。

それまでの安物と違い，腕は悪いがどこか誇らしげに高級カメラを担いで，８年間も町内をうろついた。これがこの趣味の契機となり，何事にも凝り性の性格が写真にのめり込む要因となった。そして昭和55年，私の撮影による妙な写真が，何と県の広報写真コンクールで特選をいただくに至り，病は決定的になった。以来今日まで，自慢ではないが，入賞歴はただの一度もない。

それでもあきらめず，しつこく続けているには理由がある。その一つはすばらしい自然とのふれあいであり，もうひとつはかけがえのない仲間との出会いであろうと思う。

６年ほど前，社会教育講座の一環として写真教室が開かれた事があった。受講生は15名程度であったが，閉講後，受講生は別れを惜しんで写真クラブを結成した。中には相当のベテランもいたが，大半は腕より口達者な人が多い集団であった。その代表例がかく言う私だったと見えて，初代の会長となった。

クラブはその後年々会員数を増やし，今は34名となり，撮影会，合評会，先生を招いての講習会などを定期的に行っている。中でも，全会員が楽しみにしている催事は展示会で，年平均４回，町の公民館や近くの銀行などを会場として開いており，大した作品はないがそれぞれに力作，傑作と称して自画自讃し，合評し合っている。このためか，肝心な客足はパッタリとだえたまま，というのが残念である。しかし，下手は下手なりに楽しんでいるわけで，これがまた仲間の絆を強めているゆえんではないだろうか。

私は４年間で会長を辞したが，その後も仲間の一員として，結構楽しませてもらっている。

レンズ・コミュニケーション……。そんな言葉があるか否か知らないが，わが仲間はこんな仲ではないだろうか。肝心かなめの写真の腕は一向に上がる気配はないが，和気藹々（あいあい）のこんな雰囲気がたまらず，時間を調整しては出かけて行く。

【新着資料案内】【新着資料案内】

この資料は，昭和61年８月中に統計課に到着した主なものです。ご利用下さい。
資料室　本庁舎地下１階　TEL 0292-21-8111(内線2238・2239)

行政資料名	発行所(者)
中央省庁関係	
昭和61年版　公務員白書	人事院
昭和61年　日本の統計	総務庁
統計に用いる標準地域コード　全国都道府県　市区町村　郡・支庁　昭和61年７月１日現在	〃
昭和60年　国勢調査報告　第２巻　第１次基本集計結果　その2 都道府県・市区町村編　島根県　香川県	〃
昭和60年　国勢調査　抽出速報集計結果(1%抽出集計結果)　その1 全国編	〃
昭和61年版　警察白書　―豊かな長寿社会を目指して―	警察庁
昭和61年度　消費動向調査　昭和61年６月実施調査結果	経済企画庁
昭和61年版　わが外交の近況　外交青書	外務省
昭和60年　簡易生命表	厚生省
昭和60年　優生保護統計報告	〃
昭和60年　衛生行政業務報告(厚生省報告例)	〃
第７次　漁業センサス　第13報　海面漁業の地区別概況図　北海道～沖縄県　昭和58年11月１日調査	農林水産省
昭和59年　工業統計表　工業地区編	通商産業省
昭和60年　資源統計年報	〃
昭和60年　商業動態統計年報(大型小売店販売統計編)	〃
昭和60年　エネルギー生産・需給統計年報(石油・石炭)	〃
昭和61年度版　中小企業施策のあらまし	中小企業庁
1986年版　気象年鑑	気象庁
昭和60年　賃金構造基本統計調査報告　第１～４巻	労働省
昭和61年版　建設白書	建設省
昭和60年度　公共工事着工統計年度報	〃
昭和59年度　建設工事施工統計調査報告	〃
昭和61年版　住民基本台帳に基づく　全国人口・世帯数表　人口動態表	自治省
茨城県関係	
昭和61年度　環境局の概要	環境管理課
霞ヶ浦水質汚濁調査報告書　昭和49年～60年	公害技術センター
昭和61年度　総務部の概要	総務課
コンピュータのあゆみ　No.16	情報システム課
職員の福利厚生概要	職員課
昭和61年度　企画部の概要	企画調整課
昭和60年国勢調査　抽出速報集計結果(１%抽出集計結果)	統計課
昭和60年　茨城県鉱工業指数(昭和55年基準)	〃
昭和60年度　業務概要	中央児童相談所 土浦　〃 下館　〃
昭和60年度　一年のあゆみ	消費生活センター
昭和60年度　事業計画概要	医務課
名京阪神市場の概要と茨城県産青果物の入荷状況	大阪事務所
昭和60年度　業務概要	計量検定所
昭和61年度　事業計画概要	農政企画課
昭和60年　地方卸売市場年報	流通園芸課
昭和60年度　―地域農産物の手づくり加工活動―　茨城の生活改善普及活動	改良普及課
茨城県養鶏試験場研究報告	養鶏試験場
昭和60年度　業務報告　No.23	林業試験場
茨城県におけるマツ枯損発生の環境要因	〃
大気汚染が樹木に及ぼす影響の評価に対する研究	〃
茨城の水産	漁政課
昭和59年度　水産業協同組合要覧	〃
昭和60年　茨城県水産試験場業績集	水産試験場
農地調整年報(昭和60年１月～12月)	農地管理課
1985　教育要覧	教育庁企画室
昭和60年　交通白書	警察本部
昭和60年版　茨城県地方労働委員会年報	地方労働委員会
県内市町村関係	
公害の現況と対策〈資料集〉59・60年度	日立市
昭和60年版　那珂湊市行政資料	那珂湊市
第二次水海道市総合振興計画	水海道市
第三次新治村総合計画基本構想	新治村
第三次総和町総合計画	総和町
都道府県関係	
昭和60年　家計調査の結果報告書	北海道統計課
昭和60年　岩手県の商業	岩手県統計調査課
昭和60年　山形県消費者物価指数	山形県統計調査課
昭和59年度　県民社会生活関連指標	福島県統計調査課
昭和61年度　学校基本調査	埼玉県統計課
昭和61年度版　千葉県市町村別,町丁字別人口	千葉県統計課
昭和60年　東京都鉱工業指数年報　昭和55年基準	東京都商工統計課
昭和60年度　統計からみた神奈川県経済の動向	神奈川県統計課
昭和61年度　学校基本調査結果速報	愛知県統計課
昭和60年　京都府の勤労統計	京都府統計課
昭和60年　岡山県の賃金,労働時間及び雇用	岡山県統計管理課
昭和60年　香川県の商業	香川県統計調査課
公社・会社・団体等関係	
茨城の商圏　第８回	(財)常陽産業開発センター
国際科学技術博覧会	(財)国際科学技術博覧会協会
綱火の歴史　改訂版	高岡流綱火保存会

経済動向

国内の動き

●円高デフレ，景気後退鮮明に

9日発表した経済企画庁の4～6月の国民所得統計速報と日銀の「企業短期経済観測調査」(8月実施)はともに，円高デフレによる景気の後退を裏付けた。経済企画庁は政府経済見通しの61年度実質4.0%成長の達成を断念することを表明した。ただ，政府・日銀は非製造業が堅調で景気の底割れはないとみている。

4～6月の国民所得統計速報によると，実質GNP(国民総生産，季節調整値)は前期比0.9%増，年率換算した瞬間風速では3.6%増となり，1～3月のマイナス成長からプラスに転じた。記念硬貨用の金の輸入増で外需がマイナスになり，設備投資も低迷した一方，個人消費，住宅消費の家計部門需要は堅調だった。前年同期比成長率を見ると2.2%と，第1次石油危機後の50年1～3月期(1.2%)以来の低い伸び。(日経　9月10日付)

●総合経済対策，事業量3兆6360億円

政府は19日午前，経済対策閣僚会議を開き，総合経済対策を決定した。急速な円高による景気後退をテコ入れするのがねらい。国の公共事業や地方単独事業の追加，住宅金融公庫融資枠の拡大などで公共投資を3兆円追加，これに電力・ガス会社の設備投資追加などを加え，総額3兆6千億円の事業量を確保した。また，民活事業促進のため，「民活法」対象事業費の5%程度を助成する制度を新設した。政府はこの対策の中には今年度政府見通しの4%成長達成には触れていないが，3兆円を超す事業量確保により内需拡大に取り組む日本の姿勢を内外に印象づける考えだ。

対策は，①公共投資の拡大　②住宅建設，民間設備投資等の促進　③規制緩和，インセンティブ(恩典)の付与等による民間活力の活用の推進　④中小企業対策　⑥円高及び原油価格の低下に伴う差益の還元と価格の適正化　⑦金融政策の機動的運営　⑧国際社会への貢献　の8本柱。
(日経　9月19日付)

●「カネ余り」警戒段階，8月マネーサプライ8.9%増

日銀は16日，カネ余り現象が警戒すべき段階になってきたとの判断を明らかにした。景気が一段と後退している中で，8月のマネーサプライが前年同月比8.9%増と高い伸びを示したほか，企業の手元にどれだけ余裕資金があるかを示す手元流動性比率も直近のピーク時に近づいているからだ。

日銀は名目成長率に2%上乗せした水準がマネーサプライの適正な伸び率としており，現在の経済情勢では7%程度が妥当としている。いまの傾向が続くと，円高，原油安の構図が崩れた時に高水準のマネーサプライが物価上昇に火をつけると懸念している。このため日銀は当面，内外からの内需拡大要請で浮上している第4次公定歩合引き下げを見送るとともに，金融機関に対し慎重な貸し出し態度を求める考えだ。(日経　9月17日付)

県内の動き

●県農業粗生産額，前年実績下回る

茨城県統計情報事務所はこのほど，60年の農業粗生産額を概算でまとめた。それによると，本県の農業粗生産額は，57年以来3年ぶりに前年実績を下回った。要因は葉タバコの生産調整による減産と，米が前年より下回ったためとみられる。

本県の農業粗生産額は5191億6300万円で前年に比べ136億2500万円の減。これを部門別でみると，米などの耕作部門が3523億7700万円で前年に比べ111億1500万円(3.1%)減。養蚕部門が51億9200万円で9億1800万円(15%)減。畜産部門が1555億5600万円で24億5100万円(1.6%)減少した。加工部門は40億3800万円で8億5900万円(27%)増加した。(いはらき　9月29日付)

●県60年度観光客，2千万人超え過去最高

茨城県を60年度に訪れた観光客(科学万博観客を除く)は2年連続2千万人を超え，推計2297万人で，過去最高となった。万博客を含めると，4300万人。増加の要因としては常磐自動車道開通が大きいとみている。

県観光物産課のまとめによると，60年度の前年度比5.5%増。日帰り客は全体の79%に当る1808万人で，宿泊客は同21%減の489万人。宿泊客数は57，58，59の3ヵ年度の実績を下回った。

地域別では常磐道など交通網整備の効果により，北茨城，日立，奥久慈，水戸と県北地域の伸びが大きい。
(いはらき　9月30日付)